

# 介護老人保健施設オアシス21

症 例 概 要 入所者 女性 90歳代

病名：認知症

以前は自宅で生活することが難しくグループホームに入居されていた利用者さん。ADLの低下で入院となり、その後はグループホームには戻ることが困難になったためオアシスに入所。

利用者さんご家族のニーズを探りながら介護計画を立て生活リハビリを行うことでQOLが向上し、ナースイン花びりかを利用することで再び自宅でご家族と一緒に暮らすことができるようになった症例。

## 内 容

利用者さんは認知症の進行により平成29年7月より石狩市内のグループホームに入所されていました。徐々に体力も落ち食事が取れなくなり低栄養状態でADLも低下されたため入院しCVポート挿入。入院施設ではコロナ禍でご家族とも面会ができず、主介護者である娘様も利用者さんの状態を把握出来ない状況でした。

その後、今まで入所されていたグループホームに戻ることが困難となり、令和2年12月オアシス21に入所となりました。

入所時のADLはほぼ全介助。ご家族はしばらく利用者さんと面会をされていなく、状態もわからなかったため、オアシスでの日常を動画に撮り見ていただいていたいました。

そのなかで、ご家族の生活状況と合わせて相談を繰り返し、自宅に戻る目標を立て、ご本人の好きな物を食べられることでQOLの向上を目指すこととしてプランニングしました。

自宅へ戻ることに向けて、管理栄養士はご家族にミキサー食の作り方を教えつつ、オアシス入所中は離床時間を増やし食事の自力摂取を目指し日常生活リハビリに取り組むことで、次第に自力で召し上がることが出来るようになってきました。

しかし、ご家族の生活と合わせて自宅へ戻ることを考えると、トイレ、入浴、体調管理などの不安もあることから、ナースイン花びりかの利用を提案。ご家族にも了承を得て自宅に戻ることが可能となりました。

いよいよ自宅に戻る日になると、娘様は久しぶりに直接お会いし「待ちに待った日が来たね-」と感激。利用者さんも普段見ることが出来ないくらいの笑顔と涙で自宅に戻られました。

ADLの低下から入院後はもともと入所されていたグループホームに戻れずオアシスに入所された利用者さんに対し、ご家族と利用者さんのニーズを探りながら介護計画を立て生活リハビリを行うことでQOLの向上。ナースイン花びりかを利用し再び自宅でご家族と一緒に暮らせるようになった症例として推薦いたします。